

NO. 122

# 泉南走ろう会

連絡先  
泉南スポーツ社  
0724(83)4653

楽しく走るために

天の邪鬼、臍曲り、ゲテモノ好みみだり

会長 透健三

昔は長距離ランニングといえば青梅マラソン(三ツキロ)ぐらいしかなかった。フルマラソン大会など、そう各地で行われていなかった。それが、何んと今では篠山マラソン、河内湖マラソンに三〇〇〇人が走るといふ。泉南市新家でも、毎日のように走っている人がいる。雨の日も風の日も、ときには素足で、この頃少レサボテているが、今や、毎月各地でマラソン大会が行われている。泉南走ろう会も発足十年になった。イマイチ、モリ上がりがないが(何故か)このことは別の機会に論議いたしましよ。しかし、天の邪鬼の様な人がいる。人が行かない、それならば自分が行く、あのコースはきつい、本格小岳登山マラソンだ。かや大江川マラソン。これは、おもしろい、参加しよう。心臓やぶり、フルマラソン、高路村マラソン。これ、これだ。心臓やぶり、面白。旅行機で高知まで行き、参加する。この人達どう考えても天の邪鬼、へそ曲り、ゲテ

モノスだと思ふ。このような人達が、泉南走ろう会発足十年にして出てきたことは、非常に価値あることだと思う。あのきついマラソンを完走したということは、体力的、精神的に大いに自信を深めたことだと思う。かの人達にとっては、一生の「思い出」一生の「財産」だと思ふ。

三省堂の辞林によれば

天の邪鬼、わがと他人の言行に反対する人

意地を張る者、つむじ曲り。

へそ曲り、つむじ曲り、あまのじやく。

ゲテモノ、あまリ手を加えない、妙なもの。

妄物。

とある。

人はきつい小岳マラソンだ。場所は遠い高知だ。そして心臓やぶりのマラソンだ。あんなものに参加するなんて、気が知れぬ。あえて他人の言行に反対して参加する。まさしく天の邪鬼だ。またある。天の邪鬼氏は、それはエッセである。人が行かない、それならば自分は行かないような顔をして、何時の間にか、一身のマラソンに参加申し込む。あえて他人の言行に反対し、一身のダハに参加する。立派といふか、根性あるなと思ふ。前に練習不足で失敗といふやうに散えて挑戦する。

丁度天の邪鬼でも

変わり者でもない、奇人でもない、非常に、ノーマ



ルな人である。人が一身のダハマラソンに参加しない。これは走ろう会恒例のマラソンであった。この灯を消してはならない人が行かなくても、自分が行く。さうこと参加手続を済ませ、信念の人である。

信念、固く信じて変わらぬ考え。この様に、人が反対する。「あんなきついマラソン」「あんな面白くない心臓やぶりのマラソン」。他人の言行に反対し、意地を張り通す天の邪鬼、へそ曲り、ゲテモノ、あまリ手を加えない、妙なもの。それらの大会に参加し、困難、厳しいコースを完走することはランニングを楽しくする。

とは申せ、こぶらのコース完走は、一朝一夕で出来るものではない。慎重なるトレーニング、不断の努力が必要である。頑張、て何かをやる。天の邪鬼といわれようがやる。頑張るやるのではなく、何かをやる心、湧き出る心を大切にしたい。さあ、フルマラソンに挑戦しよう。楽しくランニングをしよう。継続は力なり。



「ランナー」とは

一流ランナー 朝夕ニ回走る

二流ランナー 朝か夕どちらか走る

三流ランナー 朝、今日は走らない。夕方走ろう

夕方に走ると、今頃走ってもはかばかしい。明日、朝走ろう。

大江山マラソン

一流ランナー 上り下りにも強い

二流ランナー 上りか下りか、どちらかが強い

三流ランナー 上りも下りも、平地も駄目(逃)

(付記)

大江山マラソン栗野原さん、岡田さん、宮下さん、そして岡田さんの友人。好タイムにて完走。遂、根生にて完走。  
お道の応援、人達より、拍手喝采を受く。



おらが村心臓やぶりフルマラソン

牧野源泉

「プロローグ」 高知県馬路村。人口約千四百人。県の東北部、徳島県との境界近くにポツンと位置する山村である。九月二十九日、ここでタイトルに掲げた名前の大会が「村の活力」の顕在化の一助となることを願って開催され、それに参加してきた。それはマア、人恋しそうに、精いっぱい準備でもてなしてくれたことでした。

「前夜祭の断面」 村の産物を中心にして、食べ物や飲み物はふんだんにあった。材料費だけでゆうに参加費の千円を越えると思われる。「これをどうぞ、あれをどうぞ、お代わりを。」支度してくれた村のきれいだころがどんどん勧められる。男の人は「なにぶん、初めてのことで。気がついたことは何でも教えて下さい」と言いながら、親しそうに話しかけてくる。「むしろ、苦勞話を」と問うてみると、次のように答えてくれた。

「二百名の定員で募集したが、とてもそんなに集まらないだろうと思っていた(結果は四百五十二名。宿は四軒しかないのです、あせったという)。「どうしたら皆さんに喜んでもらえるだろうか。」「何度も集まって話し合った。『コースを村公認にしよう。それなら村の威信にかけて、できるだけ正確な距離にしよう。』何度も何度も巻尺で測り直した。『苦しそうな所やゴールには花を置こう。』製材所で木のプランターを作ってもらい、それらと花の種を各家に配って、協力してもらった(ずいぶん目にしたと思うが、前日の台風でかなりがダメになったという)。「給水所には何を置こうか。』袖や蜂蜜が入

った飲み物が恰好だろう。食べ物、走りながらだから、バナナ、パン、おにぎり、それに(なぜか)ゆで卵がいいだろう。等々。」また、こうも言っていた。「私も役場のものですが、人手がないもので、この一週間は仕事らしい仕事をほとんどしていませんですワ。」聞いていて、嬉しく、恐縮するばかりである。

「コースと走りっぷり」 コースは山越えのワンウェイ。見るだけで楽しいイラスト入りのコース図には、高低差約二百七十米とあり、心臓やぶりの坂一、二、三が強調されている。だが、ランナーの多くにとつて、最大の曲者はこれらの坂ではなかった。なだらかながらも、山頂から約十kmにわたって続く下り坂である。調子にのつてとばし過ぎると、たちどころに足にくるからだ。私はこの畏にはまらないで済んだ。これが読めていたからではない。泥縄式の練習からくるスタミナ切れの不安が絶えずあったからだ。

この落とし穴を運よくクリアし、全行程の半分あたりを過ぎてからは、自分を元気づけるような都合のよいささやきが頭の中を巡っていた。杉の濃い緑と清流ときれいな空気は口や鼻だけで呼吸するものではないと教えてくれているようだった。蜂蜜入り袖ドリンクや柚の汁をたらししたお茶・水は疲労の進行を止めてくれている。軒下やちよつとした広場から送ってくれる老若男女の声援もまた、エネルギーであった。

結局、ポツポツながらも、一人また一人と抜きながら、抜かれもしたけれど、淡々と走ってゴールイン。時計は三時間十分四秒を示していた。予定より

一時間も早く、出来過ぎである。

【エピソード】 村の人々の純朴な、まさに「おらが村」の心意気に触れて、気持ちがりフレッシュできた。謙虚に前向きに学ぶ姿勢も改めて学習できた。私にとってよい夏休みの終わりである。

△追記▽達会長は大江山の日と重なったために参加を断念されましたが、コース図を一瞥しただけで「落とし穴は下り坂にあり」と見抜かれていたご様子、敬服しつつ皆様に披露します。また、大江山を奮走されました達さん、粟野原さん、宮下さん、岡田さん、天王寺駅で示された寛大さと友情には感謝しております。



お知らせ

一、例会日

・十月二十七日、午前九時

泉南市体育館

・十一月十日 右と同ド（送欠席）

二、コース

皆と相談して決める

三、案件

イ 泉州、千亀利マラソンについて

ロ、篠山ABCマラソンについて



来年二月に開催されます泉州マラソン千亀利マラソンの申し込みについて

二月十五日（金）より申し込み受け付けが始まりますが、定員が千名に限られております

細井さんが十三日に費項をもらってきてくれますので、一括申し込み御希望の方は十四日中に大会費（多分千円）と印かんを事務局泉南スポーツ社までお届け下さい

十五日に細井さんに申し込みをし返ります。

尚、個々に申し込んでいる方はなるべく早めに御申し込み下さい。